

千住工場の近代化

昭和四十年代（一九六五～）は、四十八年（一九七三）に石油ショックが突発するまで、かつてない高度経済成長時代になった。

所得の上昇と共に消費購買力が活発になり、四十一年（一九六六）には、カラーテレビ、クーラー、カーの“3C時代”が出現し、いよいよ、わが国にも自動車時代が到来した。四十四年（一九六九）には、トヨタ、日産の年間生産台数が百万台を突破した。同年六月に発表された四十三年度のGNP（国民総生産）は、ついに西ドイツを抜いて、米国に次ぐ自由世界第二位になった。

高度経済成長時代の華やかな舞台の幕が上がりつつあった昭和四十年（一九六五）、当社は時代の潮流を読みとり、それに対応するため千住工場の近代化を意図した。新工場は鉄筋コンクリート二階建て、延べ六百三十坪、これに付帯した型置場、業界唯一の実験実習室と特殊作業室が設けられ、この完成によって当社は新時代に入った。着工は同年四月一日、完成は八カ月後の十一月三十日というスピードぶり。この間、工事を三期にわけて進め、鉄骨組みが一段落した八月十九日を佳き日と定め、社長をはじめ、工場長、工事幹部、関係業者が参列して上棟式を行った。

この新工場の完成と合理化によって、生産性が一挙に三〇％アップした。